

シュロチクやフェニックスなどのヤシ科植物で生育するというクロボシセセリは1973年6月に石垣島で発見されたのが最初だそうだ。最近では八重山諸島のどこでも目にする普通種で、1993年の石垣島初訪問時にもう出会いを果たしているが、2012年の与那国島訪問で初めてまともな撮影記録ができてようやくここに記載できる。

以下、八重山諸島蝶探索紀行から抜粋。

Sep. 4, 1993 石垣島バナナ公園

公園裏手の道沿いにはスジグロカバマダラとリュウキュウアサギマダラが多く、ときおりベニモンアゲハがパタパタと抑揚のないはばたきで道を横切って山手の林内に消えてゆく。センダングサが多くみられるあたりでオジロシジミを初めてネットに納める。本種は郷里の高知市五台山で迷蝶として記録されているのであまりにあっさりと採れてしまうと妙な感じ。セセリチョウの仲間は背中部分の細毛がとれやすくて標本として整理する対象としにくいですが、クロボシセセリなどを採る。

Aug. 31, 1994 石垣島バナナ公園

路傍一帯に展開するセンダングサの白い花が多い草むらではウスキシロチョウが敏捷な動きで次々と場所を変えて飛びまわる。クロボシセセリも混じる。足元をリュウキュウヒメジャノメが横切って飛ぶ。あいかわらずツマベニチョウは訪れてくれないハイビスカスの並木道では、下草を形成するセンダングサの花上で珍蝶イワカワシジミやシジミチョウには珍しく美しいブルーの金属光沢をもつルリウラナシジミなどを採ることができて、悪天候のなかをやってきた甲斐はあったと胸をなでおろす。

Dec. 2, 2012 与那国島アギンダ

後翅が傷んだクロマダラソテツシジミ、精悍なクロボシセセリ、ミズイロナガボソウのムラサキの花を訪れた台湾ンシロチョウの低温期型♀、センダングサ周辺をフワリフワリと飛び交うクロテンシロチョウ、リュウキュウアサギマダラ、など可能な限りのビデオ撮影をしている間に、妻が「こんなチョウが採れたよ」と見せにきたのは見事に新鮮なシロミスジだ。先ほど、ブッシュ奥で翅を開くシロミスジにカメラを向けながら飛び去られており、このような新鮮個体をネットインしてくれたのには驚いてしまう。

